

気候情報

2007年の台風

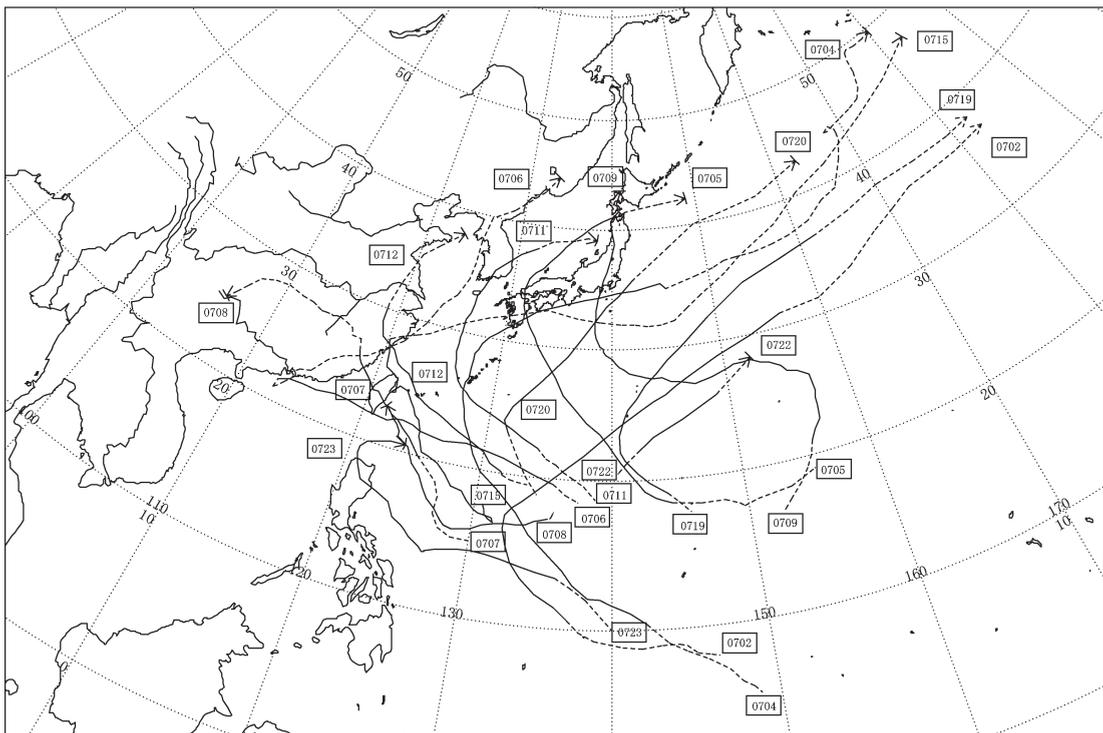
台風第4号，5号，9号が上陸

1. 概要

平成19年に発生した台風は24個（平成26.7個）とほぼ平成並みだった。

日本に上陸した台風は，台風第4号，台風第5号，台風第9号の3個（平成2.6個）と平成並だった。ま

た，日本本土への接近数は5個（平成5.2個），沖縄・奄美は8個（平成7.2個）とほぼ平成並みで，日本全体としては12個（平成10.8個）と，発生した台風の半分が接近した。第1表に台風の発生数，上陸数，接近数を，第2表に発生した台風の一覧を示す。



第1図 2007年に日本に影響を及ぼした台風の経路図。

第1表 2007年の台風発生数、日本への上陸数、日本への接近数。

項目	月	月												年間
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
平 年	発生数	0.5	0.1	0.4	0.8	1.0	1.7	4.1	5.5	5.1	3.9	2.5	1.3	26.7
	上陸数						0.2	0.5	0.9	0.9	0.1	0.0		2.6
	接近数				0.1	0.5	0.7	2.1	3.4	2.6	1.3	0.7	0.1	10.8
平成18年 (2006年)	発生数					1	1	3	7	3	4	2	2	23
	上陸数								1	1				2
	接近数							3	4	2	1			10
平成19年 (2007年)	発生数				1	1		3	4	5	6	4		24
	上陸数							1	1	1				3
	接近数					1		1	4	3	3			12

(注) ・平年値は、昭和46年(1971年)～平成12年(2000年)の30年平均。

・日本への接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

上陸：台風の中心が北海道、本州、四国、九州の海岸線に達した場合を「上陸」という。小さい島や半島を横切って短時間で再び海に出る場合は「通過」とする。

接近：台風の中心が、日本の海岸線から300 km以内に入った場合を「接近」という。

平成19年の台風は、例年より北で発生し寿命が短い台風が多かったことが特徴である。また、平成19年の台風のなかでは、台風第4号が西日本を中心に大きな被害をもたらした。

2. 日本に影響を及ぼした主な台風

日本に影響した台風(本稿では台風の中心が日本から概ね500 kmに入った場合とする)のうち、主な台風について以下に概要を示す。なお、風速や降水量などの観測値を記載する際の観測地点名は、气象台や測候所などのときはその官署名を、アメダス地点の場合は都道府県名、市町村名及び地点名(地点名が市町村名と同じ場合は省略)とした。被害状況については、主に気象庁が取りまとめた資料によるが、一部、総務省消防庁等発表の資料も使用した。第3表に日本に影響した台風の一覧、第1図にその経路図を示す。

(1) 台風第4号(MAN-YI)

7月7日15時にカロリン諸島近海で発生した熱帯低気圧は西北西へ進み、9日09時にグアム島の南西海上で台風第4号となった。台風は北西へ進み、12日09時に沖縄本島の南海上で勢力が最大となり、大型で非常に強い台風となった。13日には東シナ海で北東へ向きを変え、14日13時過ぎに鹿児島県指宿市付近を通過し、14日14時過ぎに大型で強い勢力で鹿児島県鹿屋市付近に上陸した。上陸時の中心気圧は、7月に上陸した台風としては観測史上最も低い945 hPaであった。その後、四国、本州の南海上を東北東へ進み、14日21

時半頃に高知県土佐清水市付近を通過し、15日05時過ぎに和歌山県串本町付近を通過した。台風は16日09時に日本の東海上で温帯低気圧に変わり、日本のはるか東海上で北東へ向きを変え、23日15時にアリューシャン列島の南海上で経度180度線を越えた。

台風と活発な梅雨前線の活動により、13日から16日のはじめにかけて西日本から東日本の太平洋側を中心に記録的な大雨となった。13日から15日にかけての総雨量は、大雨となった各地で7月の月間平均雨量を超え、高知県仁淀川町池川で637 mm、宮崎県美郷町神門で528 mm、三重県尾鷲市尾鷲で486 mmなどとなった。13日には沖縄県、宮崎県で日雨量が200 mmを超え、宮崎県日向市の24時間雨量は399 mmと観測史上最大となった。14日の日雨量は九州南部地方、四国地方、東海地方、関東地方南部で300 mmを超え、徳島県那賀町木頭では531 mmとなった。15日には東海地方から東北南部にかけて日雨量が200 mmを超え、静岡県富士市では24時間雨量が観測史上最大となる316 mmとなった。また、台風の通過した沖縄・奄美の一部と西日本から東日本の太平洋側では暴風となり、13日には沖縄県金武町で最大風速33 m/s、14日には宮崎県日南市油津で最大瞬間風速55.9 m/sなど観測史上最大となった。さらに、沖縄本島近海から四国沖にかけては波の高さが9 mを超える猛烈なしけとなり、沖縄本島や瀬戸内海の一部では高潮が発生した。

13日から16日にかけての被害状況は、大雨で増水した河川への転落などにより、鹿児島県で死者2名、徳

島県、沖縄県でそれぞれ死者1名、愛知県で行方不明者1名となり、沖縄・奄美から東北部の太平洋側を中心に土砂災害、浸水害、住家損壊が発生した。住家被害は全壊、半壊、一部損壊が合わせて約200棟、床上・床下浸水が約2,300棟となった。農業・林業・水産業被害や鉄道の運休、航空機・フェリーの欠航などによる交通障害も発生した。また、沖縄本島では高潮により床上浸水被害が発生し、瀬戸内海の一部でも床下浸水が発生した。

(2) 台風第5号 (USAGI)

7月27日21時に南鳥島の南海上で発生した熱帯低気圧は西へ進み、29日15時にマリアナ諸島近海で台風第5号となった。台風は日本の南海上を北西へ進み、8月1日03時に非常に強い勢力となり、同日09時には勢力が最大となった。2日には九州に接近し、同日18時前に強い勢力で宮崎県日向市付近に上陸した。3日01時過ぎには山口県宇部市付近に再上陸し、その後、日本海を北東へ進み、4日13時頃に青森県津軽半島に、14時過ぎに青森県下北半島に再上陸した。15時に下北半島の北東海上で熱帯低気圧に変わると、北海道の南海上を東へ進んだ21時に温帯低気圧に変わり、5日09時に北海道の南東海上で消滅した。

西日本の各地と東北地方の一部で大雨となった。九州地方の一部では降り始めからの総雨量が500 mmを超え、熊本県、大分県、福岡県、愛媛県、徳島県では総雨量が8月の月間平均雨量を超える記録的な大雨となったところがあった。24時間雨量は、3日に大分県豊後大野市温見で431 mm、熊本県八代市大金峰で403 mm、福岡県添田町英彦山で386 mmと観測史上最大となった。また、西日本の各地や東北地方の日本海側の一部では暴風となり、九州の日向灘から四国沖にかけては波の高さが9 mを超える猛烈なしけとなった。さらに、九州地方や中国地方の瀬戸内海沿岸の一部では高潮が発生した。

このため、九州地方、四国地方、中国地方を中心に土砂災害、浸水害、住家損壊が発生し、住家被害は全壊2棟、半壊、一部損壊を合わせて161棟、床上浸水146棟、床下浸水491棟となった。また、農業・林業・水産業被害や鉄道の運休、航空機・フェリーなどの欠航があった。

(3) 台風第9号 (FITOW)

8月28日03時に南鳥島の南海上で発生した熱帯低気

圧は北東へ進み、29日09時に南鳥島の南東海上で台風第9号となった。台風は反時計回りに向きを変えながら進み、31日09時に南鳥島の北東海上で勢力が最大となり、父島の東海上を西へ進みながらやや勢力を弱めたが、向きを北に変えながら発達し、5日09時には再び勢力が最大となった。その後、伊豆諸島の西海上を北上し、7日00時前に強い勢力で静岡県伊豆半島南部に上陸すると、関東地方から東北地方を縦断し、8日01時前に北海道函館市付近に、03時半頃に北海道胆振支庁西部に再上陸した。台風は同日09時に石狩湾付近の海上で温帯低気圧に変わり、15時に消滅した。

関東甲信地方、東北地方、北海道の各地と東海地方、北陸地方の一部では大雨となった。降り始めからの総雨量は、関東甲信地方と東海地方の一部で600 mmを超え、東京都、埼玉県、群馬県では9月の月間平均雨量の2倍を超える記録的な大雨となった。24時間雨量は7日に静岡県伊豆市湯ヶ島で627 mm、東京都奥多摩町小河内で569 mm、埼玉県秩父市浦山で475 mm、群馬県甘楽町稲倉山で458 mmとなるなど、静岡県、東京都、埼玉県、群馬県、栃木県、長野県で観測史上最大となったところがあった。また、東海地方、関東甲信地方、東北地方の各地と北海道の一部では暴風となり、台風の通過した小笠原諸島や伊豆諸島から北海道にかけての太平洋上では波の高さが6 mを超える大しけとなった。

台風による被害は、長野県で死者1名、神奈川県で行方不明者2名となり、大雨となった各地で土砂災害、浸水害などが発生した。住家被害は全壊10棟、半壊、一部損壊が合わせて674棟、床上浸水415棟、床下浸水1,195棟となった。農業・林業・水産業被害や鉄道の運休、航空機・フェリーの欠航などによる交通障害の発生もあった。

また、6日の関東地方は大気の状態が不安定となり、東京都調布市と埼玉県深谷市では発達した積乱雲の通過に伴い突風が発生した。調布市で発生した突風は藤田スケール^(注)F1と推定され、負傷者1名、住家の屋根瓦の飛散、ビニールハウス損壊などの被害があった。

(注) 藤田スケール：竜巻やダウンバーストなどの風速を、構造物などの被害調査から簡便に推定するために、シカゴ大学元教授の故藤田哲也氏により昭和46年(1971年)に考案された風速のスケールで、F1は、風速33～49 m/s(約10秒間の平均風速)の強さを表す。

第2表 2007年に発生した台風の一覧表。

台風番号	台風名	熱帯低気圧の発生			台風の発生			台風期間中の最低(大)値			熱帯低気圧または温帯低気圧となった日時と位置			消滅前の最後に確認された日時と位置			消滅前の最後に確認された日時と位置				
		月日時	北緯	東経	月日時	北緯	東経	月日時	北緯	東経	月日時	北緯	東経	月日時	北緯	東経	月日時	北緯	東経		
1	KONG-REY	3 30 21	5.8	158.2	4 1 09	9.7	152.8	4 4 03	960	4 4 09	40	4 4 03	E: 330	W: 190	4 6 09	27.0	160.0	L	4 7 03	27.1	166.3
2	YUTU	5 15 15	8.1	146.6	5 18 03	10.5	137.1	5 21 09	935	5 21 09	50	5 20 21	SE: 260	NW: 220	5 23 09	31.0	156.0	L	5 25 09		域外
3	TORAJI	7 3 09	15.4	111.7	7 4 15	18.5	110.1	7 5 21	994	7 5 21	18	7 5 09	SW: 220	NE: 150	7 6 03	22.2	106.7	TD	7 6 09	22.6	105.2
4	MAN-YI	7 7 15	5.6	148.9	7 9 09	10.3	142.3	7 13 09	930	7 13 09	50	7 13 06	SE: 650	NW: 440	7 16 09	34.7	145.5	L	7 23 15		域外
5	USAGI	7 27 21	19.0	155.3	7 29 15	18.3	144.5	8 2 09	945	8 2 09	45	8 2 12	E: 440	W: 330	8 4 15	41.6	141.6	TD	8 5 03	42.3	148.9
6	PABUK	8 5 03	18.4	137.5	8 5 15	19.6	135.6	8 7 21	975	8 7 21	35	8 8 09	NE: 300	SW: 220	8 9 15	21.6	112.9	TD	8 15 15	44.4	133.6
7	WUTIP	8 6 21	15.0	130.0	8 8 09	20.0	125.1	8 8 18	990	8 9 03	18	8 8 15	NE: 440	SW: 370					8 9 03	22.9	121.7
8	SEPAT	8 12 09	17.6	135.8	8 13 03	17.1	135.1	8 17 03	910	8 17 03	55	8 17 18	S: 500	N: 370	8 19 21	26.1	118.0	TD	8 24 15	25.0	106.0
9	FITOW	8 28 03	16.7	152.5	8 29 09	21.0	155.7	9 6 21	965	9 6 21	35	9 5 21	NE: 440	SW: 310	9 8 09	43.4	141.0	L	9 8 09	43.4	141.0
10	DANAS	9 6 09	23.6	161.3	9 7 15	26.7	157.1	9 11 03	990	9 11 03	30	9 11 21	S: 460	N: 390	9 12 03	40.0	167.6	L	9 13 09		域外
11	NARI	9 11 21	18.6	138.8	9 13 09	22.1	134.1	9 15 00	935	9 15 00	50	9 16 15	W: 220	E: 150	9 17 09	38.0	132.0	L	9 18 09	39.0	138.4
12	WIPHA	9 15 09	19.4	133.6	9 16 09	20.1	131.5	9 18 12	925	9 18 15	50	9 18 18	E: 480	W: 410	9 19 21	30.4	118.9	TD	9 20 21	37.9	123.9
13	FRANCISCO	9 21 21	19.5	122.0	9 23 21	19.3	114.0	9 24 15	990	9 24 15	20	9 24 21	N: 300	S: 170	9 25 15	20.0	107.6	TD	9 26 09	20.7	105.3
14	LEKIMA	9 29 03	17.3	125.0	9 30 09	14.6	115.8	10 2 15	975	10 2 15	30	10 1 21	S: 850	N: 750	10 4 15	17.5	102.7	TD	10 5 03	17.5	100.8
15	KROSA	10 1 15	17.6	130.6	10 2 03	17.0	130.8	10 6 12	925	10 6 12	55	10 6 15	600		10 8 09	27.8	120.1	TD	10 14 09		域外
16	HAIYAN	10 1 03	27.8	172.9	10 5 09	27.7	172.0	10 6 03	994	10 6 03	20	10 6 09	110		10 6 15	29.3	170.5	TD	10 7 09	33.6	170.7
17	PODUL	10 3 09	19.7	146.7	10 5 09	25.3	149.7	10 7 03	985	10 7 03	30	10 6 15	SE: 330	NW: 190	10 7 15	42.1	165.6	L	10 9 03	47.9	172.7
18	LINGLING	10 10 21	21.1	175.7	10 12 03	24.2	173.7	10 13 03	994	10 13 09	23	10 14 15	310		10 15 15	36.0	178.0	L	10 15 21		域外
19	KAJIKI	10 18 21	17.6	145.8	10 19 09	19.0	144.2	10 21 06	945	10 21 06	45	10 21 06	SE: 370	NW: 190	10 22 15	36.3	162.0	L	10 23 21		域外
20	FAXAI	10 25 15	18.8	134.4	10 26 09	23.0	131.7	10 27 15	975	10 27 18	30	10 27 18	E: 440	W: 190	10 27 21	35.6	142.2	L	10 29 03	42.8	162.9
21	PEIPAH	11 2 03	18.1	132.5	11 3 21	17.8	127.3	11 7 03	970	11 7 09	35	11 7 03	NW: 300	SE: 200	11 9 03	14.9	112.3	TD	11 10 21	10.7	107.1
22	TAPAH	11 11 21	20.5	140.5	11 12 09	22.2	142.3	11 12 15	996	11 12 21	18	11 12 15	NE: 300	SW: 190	11 13 03	25.8	148.9	TD	11 13 09	28.2	152.4
23	MITAG	11 20 03	10.0	140.0	11 20 21	13.2	136.2	11 23 09	955	11 23 09	40	11 25 03	370		11 27 21	20.6	124.0	TD	11 27 21	20.6	124.0
24	HAGIBIS	11 19 03	8.9	127.0	11 21 03	9.6	116.7	11 23 09	970	11 23 09	35	11 23 09	330		11 27 21	12.7	122.9	TD	11 28 03	14.2	124.5

表中の日はすべて日本時 (JST)。

「台風期間中の最低(大)値」の起時は、最低(大)となった最後の時刻である。

(但し、風速はノットで解析し、5 m/s 単位に換算しているため必ずしもこれに当てはまらない事がある。)

強風域とは、台風の周辺で平均風速がおおむね15 m/s 以上の領域。

種類欄の「TD」は熱帯低気圧、「L」は温帯低気圧を表す。

域外とは、日付変更線(東経180°)より東側、又は東経100°より西側の領域。

第3表 2007年に日本に影響した台風の概要表（熱帯低気圧、温帯低気圧の期間は除く）。

台風番号	日本への影響 (台風の中心が日本から概ね500 km に入った場合)		日本への接近 (台風の中心が日本の海岸線から300 km 以内に入った場合)		地域	上陸、通過
	始 月日	終 月日	始 月日	終 月日		
2	5/21	5/22	5/21	5/22	小笠原諸島	上陸または通過せず
4	7/12	7/16	7/12	7/15	沖縄・奄美、西日本、東日本、東北地方	7月14日13時過ぎ、鹿児島県指宿市付近を通過した。 7月14日14時過ぎ、鹿児島県鹿屋市付近に上陸した。 7月14日21時半頃、高知県土佐清水市付近を通過した。 7月15日05時過ぎ、和歌山県串本町付近を通過した。
5	8/1	8/4	8/2	8/4	西日本、北陸地方、北日本	8月2日18時前、宮崎県日向市付近に上陸した。 8月3日01時過ぎ、山口県宇都市付近に再上陸した。 8月4日13時頃、青森県津軽半島に再上陸した。 8月4日14時過ぎ、青森県下北半島に再上陸した。
6	8/6	8/8	8/7	8/7	沖縄地方	上陸または通過せず
7	8/8	8/9	8/8	8/9	沖縄地方	上陸または通過せず
8	8/17	8/18	8/17	8/18	沖縄地方	上陸または通過せず
9	9/3	9/8	9/4	9/8	小笠原諸島、西日本、東日本、北日本	9月7日00時前、静岡県伊豆半島南部に上陸した。 9月8日01時前、北海道函館市付近に再上陸した。 9月8日03時半頃、北海道胆振支庁西部に再上陸した。
11	9/13	9/17	9/13	9/17	沖縄・奄美、九州北部地方、中国地方	上陸または通過せず
12	9/16	9/19	9/17	9/18	沖縄地方	9月18日08時半頃、沖縄県西表島付近を通過した。
15	10/4	10/8	10/5	10/8	沖縄地方	上陸または通過せず
19	10/20	10/21	10/20	10/21	小笠原諸島	上陸または通過せず
20	10/26	10/27	10/26	10/27	沖縄地方、近畿地方、東海地方、関東甲信地方、東北地方	上陸または通過せず
22	11/12	11/12			小笠原諸島	上陸または通過せず
23	11/27	11/27			沖縄地方	上陸または通過せず

* 台風が中心が日本の海岸線から300 km 以内に入った場合を「日本に接近した台風」という。ただし、現在は気象官署からの距離で計算している。
* 台風が中心が日本から概ね500 km に入った場合を本稿では「日本に影響した台風」とした。

(4) 台風第11号 (NARI)

9月11日21時にフィリピンの東海上で発生した熱帯低気圧は西北西へ進み、13日09時に南大東島の南東海上で台風第11号となった。台風は急速に発達し、向きを北へ変えながら、14日には非常に強い勢力で沖縄本島の南海上を北西へ進み、同日21時に沖縄本島の南西海上で勢力が最大となった。台風は勢力を保ったまま久米島付近を通過した後、やや勢力を弱めながら東シナ海を北上した。16日にはチェジュ島に接近すると、北東へ向きを変えて朝鮮半島に上陸、その後日本海へ進んだ。台風は日本海で17日09時に温帯低気圧に変わり、18日15時に消滅した。

沖縄本島地方では、台風の通過した14日から15日にかけて大雨や暴風となった。この期間の総雨量は沖縄県那覇市安次嶺で170 mm などとなり、最大瞬間風速は沖縄県久米島町で南の風62.8 m/s を観測した。また、沖縄本島近海では、台風の接近した17日から18日にかけて波の高さ6 m を超える大しけとなった。

九州地方、四国地方、東海地方では、台風の影響で暖かく湿った空気が流れ込んだ14日から17日にかけて、総雨量が300 mm を超える大雨となり、四国地方では500 mm を超えるところがあった。また、東北地方では、台風の影響で活動が活発となった秋雨前線や台風から変わった低気圧により、15日から18日にかけて東北北部を中心に記録的な大雨となった。

沖縄県での台風による被害は、負傷者が2名、住家被害は全壊14棟、半壊、一部損壊を合わせて139棟、電柱の倒壊等による長時間の停電や農業・林業・水産業被害、交通障害が発生した。また、三重県では床下浸水などが発生した。

(5) 台風第12号 (WIPHA)

9月15日09時にフィリピンの東海上で発生した熱帯低気圧は西北西へ進み、16日09時に同海域で台風第12号となった。台風は北西へ進みながら急速に発達し、17日には先島諸島の南東海上で非常に強い勢力となり、18日03時に先島諸島付近で勢力が最大となった。台風は勢力を保ったまま同日08時半頃に西表島付近を通過し、19日に華中に上陸した。台風は北へ向きを変えながら急速に勢力を弱め、19日21時に熱帯低気圧に変わった。台風は北東へ向きを変えながら黄海へ進み、20日09時に温帯低気圧に変わり、21日03時に消滅した。

八重山地方、宮古島地方と、鹿児島県の一部では大雨となり、降り始めからの総雨量は八重山地方の一部

で200 mm を超えた。特に、石垣島では総雨量が315 mm となり、18日には24時間雨量が253 mm に達した。また、八重山地方、宮古島地方では暴風となり、沖縄県竹富町西表島では18日に北東の風65.9 m/s の最大瞬間風速を観測した。さらに、台風が接近した海域では、18日には波の高さが9 m を超える猛烈なしけとなった。

この台風による被害は暴風によるものが顕著で、風に煽られ転倒するなどで6名が負傷し、電柱の倒壊等による長時間の停電や電話の不通等、通信網にも大きな影響が出た。住家被害は全壊7棟、半壊、一部損壊を合わせて43棟となった。また、農業・林業・水産業被害と交通障害が発生した。

(6) 台風第15号 (KROSA)

10月1日15時にフィリピンの東海上で発生した熱帯低気圧は、2日03時に台風第15号となり、同海域にほぼ停滞した。3日以降、台風は北西へ進みながら急速に発達し、5日15時に石垣島の南海上で大型で猛烈な台風となり、勢力が最大となった。6日には与那国島付近を通過し、台湾の東海上で反時計回りのループを描くと、台湾の北端付近を北西へ進んだ。台風は勢力を弱めながら7日に華中に上陸し、8日09時に熱帯低気圧に変わった。その後、向きを東北東へ変え、同日15時に華中の海岸付近で温帯低気圧に変わった。8日から10日にかけて、温帯低気圧は東シナ海から九州を通って日本の南海上を東へ進んだ。温帯低気圧は11日に八丈島の東海上で向きを北東へ変え、14日09時前にアリューシャン列島の南の海上で経度180度線を越えた。

八重山地方、宮古島地方では大雨となり、降り始めからの総雨量は八重山地方の一部で200 mm を超えた。特に、沖縄県石垣市川平では総雨量が450 mm を超え、6日には24時間雨量が439 mm と観測史上最大となった。また、八重山地方、宮古島地方では暴風となり、与那国島では6日に南南東の風63.2 m/s の最大瞬間風速を観測した。さらに、台風が接近した海域では、6日には波の高さが9 m を超える猛烈なしけとなった。

この台風による被害は暴風によるものが顕著で、風に煽られ転倒するなどで9名の負傷者がでた。電柱の倒壊等による長時間の停電や電話の不通等、通信網にも大きな影響が出た。住家被害は一部損壊が53棟、また、土砂災害や農業・林業・水産業被害と交通障害が発生した。

(7) 台風第19号 (KAJIKI)

10月18日21時にマリアナ諸島近海で発生した熱帯低気圧は北西へ進み、19日09時に同海域で台風第19号となった。台風は転向しながら急速に勢力を強め、20日21時には硫黄島付近を北東へ進み非常に強い勢力となり、21日03時に父島の南海上で勢力が最大となった。台風は徐々に勢力を弱めながら向きを東に変え、22日15時に日本のはるか東の海上で温帯低気圧に変わった。その後、温帯低気圧は東へ進み、23日21時前にアリューシャン列島の南の海上で経度180度線を越えた。

小笠原諸島では、21日に日雨量が100 mm を超える大雨となった。また、台風の通過した海域では波の高さが6 m を超える大しけとなった。

(8) 台風第20号 (FAXAI)

10月25日15時にフィリピンの東海上で発生した熱帯低気圧は北西へ進み、26日09時に南大東島の南海上で台風第20号となった。台風は同海域で転向して北東へ進みながら速度を急速に早め、27日09時に日本の南海上で勢力が最大となった。台風はその後三宅島の南海上を通過し、同日21時に関東の東海上で温帯低気圧に変わった。その後、温帯低気圧は東北東へ進み、29日09時に日本のはるか東の海上で消滅した。

九州の南海上から本州南岸に停滞した前線により、26日には日本の広い範囲で雨となり、27日には台風の接近した伊豆諸島や東海地方から東北部にかけての太平洋側を中心に大雨となった。降り始めからの総雨

量は伊豆諸島や千葉県の一部で200 mm を超えた。東京都三宅村三宅島では総雨量が458 mm となり、24時間雨量は27日に428 mm と観測史上最大となった。また、伊豆諸島や関東南部沿岸では台風の接近した27日には暴風となり、海上では波の高さ6 m を超える大しけとなった。

関東甲信地方では土砂災害や農業・林業・水産業被害が発生し、離島便などの航空機や船舶の欠航があった。千葉県では鉄道の運休が相次いだ。

(9) 台風第23号 (MITAG)

11月20日03時にフィリピンの東海上で発生した熱帯低気圧は北西へ進み、進路を西に変えながら、同日21時に台風第23号となった。台風は西へ進みながら勢力を強め、22日09時に同海域で強い勢力となり、同日21時には勢力が最大となった。台風は23日に進路を北西へ変え、25日にルソン島に上陸した。台風は転向してルソン島の北海上を東へ進み、ルソン島の北東海上で27日21時に熱帯低気圧に変わり、28日03時に消滅した。

八重山地方では、27日に日雨量が100 mm を超える大雨となり、沖縄県竹富町志多阿原では降り始めからの総雨量が230 mm となった。また、八重山地方では台風の接近に伴い暴風となり、先島諸島近海では波の高さが4 m を超えるしけとなった。

このため、八重山地方では道路損壊や崖崩れが発生した。また、航空機や船舶の欠航があった。

(気象庁予報部予報課)